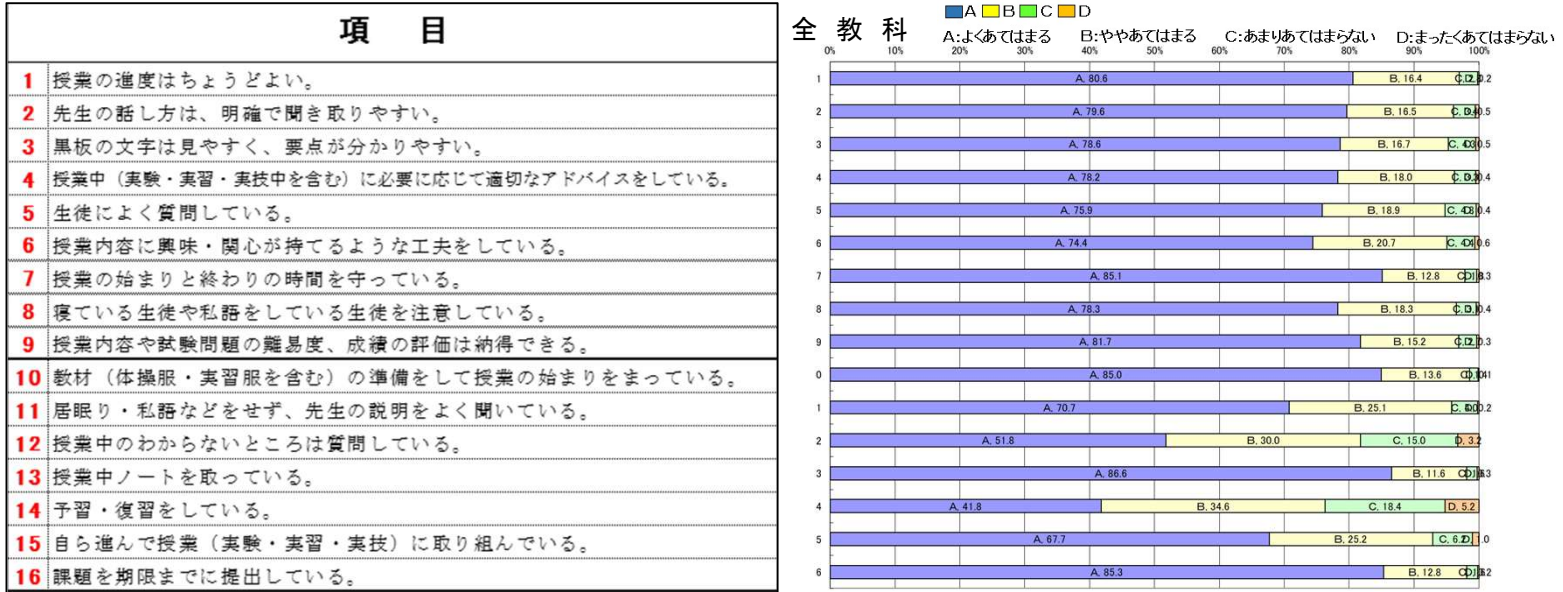


令和2年度 授業評価の結果について



	評価できる、達成できているところ	不十分な点とその具体的な改善の方法
国語	授業中積極的にノートをとったり期限を守って課題の提出が、全体で80%を超えておりよく出来ている。また、それぞれの科、コースに合わせた授業進度で行われている。板書も、電子黒板を活用したりとよく工夫されている。	予習復習が全体で40%ぐらいの生徒しかできていないので、事前学習や振り返り学習などで、プリントを活用し、それができるといえる工夫をしたい。また、授業中生徒からの質問も50%を切っておりあまり積極的に受けられるように教師側からも問いかけていきたい。
地歴公民	各項目とも高評価を得ている。中でも「興味・関心」の項目が昨年よりA評価で20%以上上昇した。電子黒板を活用し、生徒の興味関心を喚起した成果が現れた。また、「時間を守る」の項目がA・B評価合わせ98.8%と一番高い評価を得た。	「興味・関心」の項目が昨年度より高い評価を得たためさらにICT機器の活用スキルを向上させ、生徒が主体的に授業に参加できるように取り組んでいく。「寝ている生徒を指導する」項目がA評価で78.8%と一番低かった。生徒は教員の授業に取り組む姿勢を常に見ていることを念頭に授業に取り組んでいく。
数学	教員が授業の始まりと終わりの時間を厳守できていることから規律ある授業をできていることが伺える。また、シラバスに基づいて授業を進めたことが、「授業内容や試験問題の難易度」「成績」項目の高評価に繋がっていると考える。	生徒への問いかけや授業内容に興味、関心を持たせる工夫が低かったため、教員が生徒と積極的にコミュニケーションをとり、理解度を認識したうえで学習を進めていく必要がある。また、グラフや図形においては、タブレットを活用し視覚的に訴えることで生徒の興味・関心を促すために、教員のICT機器活用力の向上を図る。
理科	ほとんどの項目がA・Bを合わせて90%以上となっているため生徒は概ね授業には満足していることが伺える。「進度」「生徒によく質問している」のデータが一致していることから、内容の無理解な詰め込みは行われていないと思われる。	「興味・関心」「わからないところの質問」「予習・復習」の項目は目立ってA評価が低い。理科の教員間の協働で種々の方法や新しい授業構成および教材の開発に努める。また、内容を厳選しより簡潔にして、参加型の授業時間を増やすことでこれらの項目の改善を図る。
外国語・英語	各教員の努力・工夫のおかげで、満足度の高い授業ができていると思う。今後も定期的に行っている英語科教員の勉強会を継続し、「英語」に興味関心をしっかり持った「英語教師」が、アクティブな授業を展開できる学校にしていきたい。	生徒の回答の「わからないところを質問」「予習・復習」の項目が芳しくない点が気になる。両方とも知識の定着には必須であるため、学習に対する動機付けの部分を含めて指導を行いたい。新任の先生へアドバイスを行う中で自分の授業を見つめなおし、効果的な指導方法を教員間で共有し、授業の質の向上に努めたい。
保健体育	新型コロナウイルス感染拡大防止に注意しながら授業を行った。出来る種目と出来ない種目を教員間で話し合いながら実施した。その中でどの学科からも高い評価で満足しているように思える。	複数クラスの授業が重なった際、実施場所の確保が難しくなるため、授業計画等の見直しも必要である。また「生徒への質問」の評価が低いこと、保健・体育とももっと生徒からの質問がしやすい環境にしていきたいと思う。
芸術	感染症で制限された芸術活動の中での評価になったが、各項目で高い評価を得ている。実技教科であり、全てのクラスの生徒が主体的に取り組んでいる。生徒の表現する力を引き出す授業ができるように、内容を工夫して授業が行えている。	実技教科は積極的に取り組む生徒が多く、「楽しい」と感じる生徒が大半を占めている。その評価に満足せず授業内容の充実や指導力向上に努めたい。芸術教科は口頭での説明に偏るため板書が疎かになること、鑑賞時間が長くなるため時間配分を考える課題がある。生徒の言語活動を中心に共有する時間を増やすようにする。
家庭	項目3の高評価は授業内でパワーポイントのスライドを活用したこと、その際スライド内の文字の大きさに注意して作成したことによって達成できたことと考える。項目7は意図せず評価が高かった。授業が1コマで完結していたことが要因だと思う。	項目3・項目8での評価が低かった。授業内での解説が説明口調となりがちであったことが原因であると考えられる。授業の進行を優先しがちになり、机間巡視が手薄になっていること、また質問等の問いかけの頻度も少なくなっていることと考える。授業進行を見直し、生徒と双方向で授業が進んでいくように改善を行っていく。
情報	項目1・4・7・9が高評価である。1は年間学習計画に基づいた授業、4は実習中の個別指導、7はPC教室に早く行き授業準備を行ったこと、9はコロナ禍による1学期中間考査中止のため実習課題と筆記試験で評価したことが結果と思われる。	項目5「生徒によく質問をしている。」が60%台であるが、これは、実習中心の教科であるため、実習中においては、あまり生徒に質問をする機会がないことに起因していることと分析できる。座学の時間もあるので、その時に積極的に質問するようにしたいと思う。
商業	項目1・2の評価が高いことから、商業科の教員は、個々の生徒の学習達成度をよく把握し指導をおこなうとともに、教員としての自覚を持ち授業の時間を守り生徒をよく指導していると考えられる。今後も継続していきたい。	項目5・6の評価が低かった。項目5は、授業前に予習を実施させる取り組みをおこない、授業を活性化させることで質問が増えると考えられる。項目6は、教員の授業力の向上が必要である。改善方法としては、商業部会主催の勉強会に参加し、生徒が興味・関心が持てる授業が出来るようにしたい。
福祉	「授業内容に興味・関心が持てるようにしている」が評価A・Bを合わせると100%となっているのは、教材内容が身近で将来にも役に立つものであるとともに、授業中に身近な例を出すように心がけている結果であると思う。	生徒の自己評価の「わからないところは質問している」の項目については、自己評価が低い。もっと自分たちで話し合いを行ったり、考察する時間を増やすことで福祉に関して疑問や興味関心を持ってもらい、生徒が質問できる時間設定を心がけていきたい。
看護	看護教科の科目数が多いにもかかわらず、授業の進行や授業中の適切なアドバイスの評価は、他の項目より高いことからICTを活用し画像や映像を見せることでより学びを深め、スムーズに授業を行うことができたからだと考える。	項目「質問している」の評価が低いことから、生徒が十分に理解できていないまま授業が進んでいることが考えられる。ICTを活用し生徒が自らの課題に取り組みようとして授業改善を行う。次の単元に入る際には課題提出や単元の終了時の小テストをおこなう。校内実習においてはルーブリック評価を取り入れる

生徒のみなさんご協力ありがとうございました。先生方、集計・結果の分析ご苦労様でした。

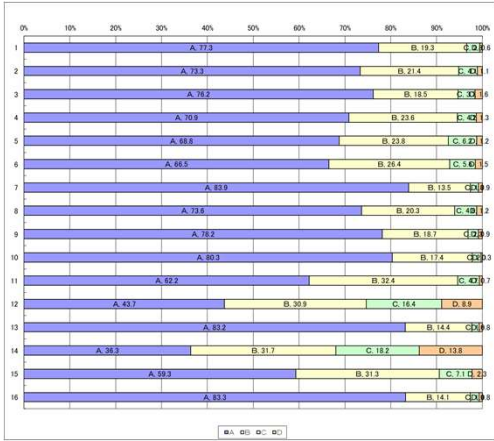
この調査を今後の授業改善に繋げていきます。

尽誠学園高等学校教務部

各教科の評価結果

R2. 9月実施

国語



地歴公民



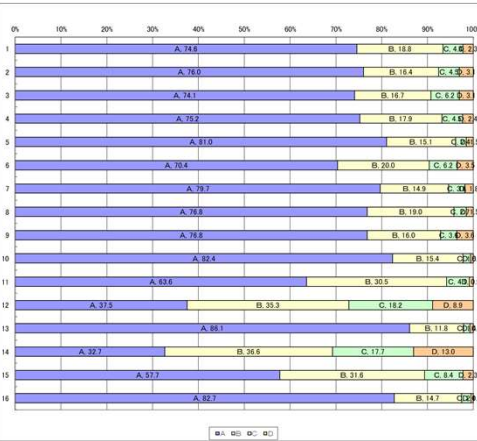
数学



理科



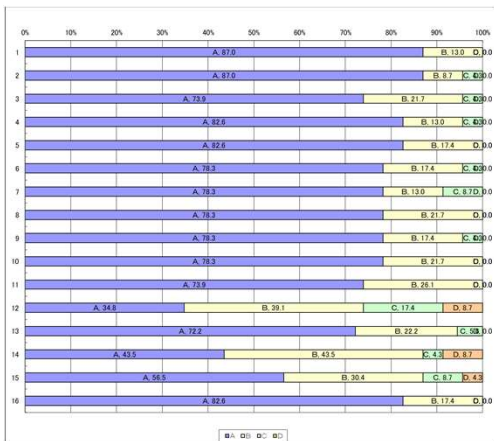
外国語（英語）



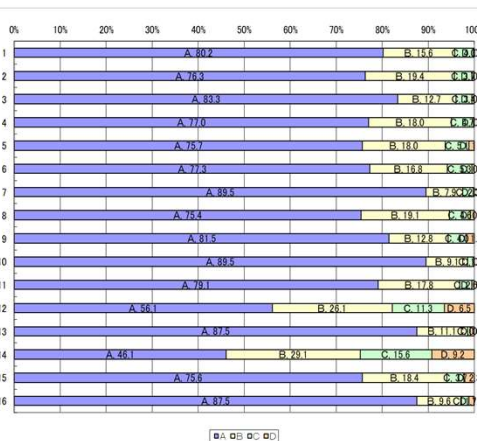
保健体育



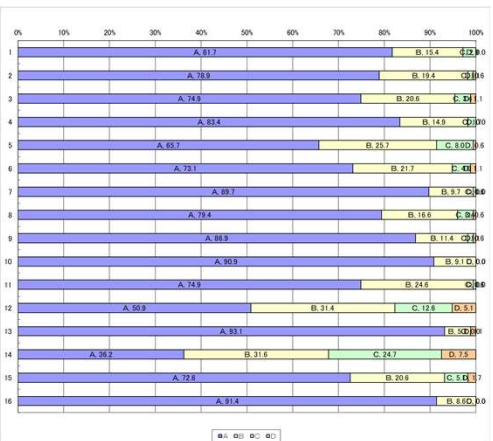
芸術



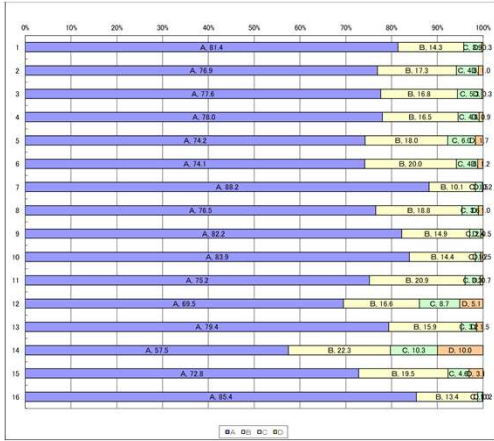
家庭



情報



商業



福祉



衛生看護

